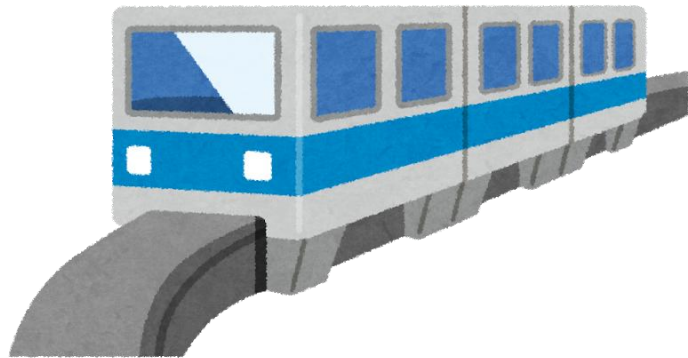


超解説 重層的支援体制整備事業の取り組み方

東京都 多摩市 健康福祉常任委員会様 行政視察（令和7年10月9日）

当事者だからこそ伝えられる **重層4年目** のリアルと効果

～ 社協が重層に取り組む意義とは？ ～



愛知県 稲沢市 市民福祉部 福祉課
社会福祉法人 稲沢市社会福祉協議会

（個人情報保護の観点からケース概要や事例紹介を削除する等、内容を一部変更しております）

稲沢市の概要

愛知県の北西部 濃尾平野の中央に位置

人口：132,435人（令和7年4月）



- ・ **令和4年度から**
『福祉の拠点』を中心に重層を展開！
(稲沢市役所東庁舎1階の総称)

愛知県内でも珍しい！（同じ庁舎内）
福祉課と社協が隣どうし！



重層に取り組んだ背景

複雑・複合的な課題を抱えたケースが増加



原因別・分野別の支援体制では、対応困難

- ・ **第4次 地域福祉計画・地域福祉活動計画**（令和2年度～6年度）



基本目標『相談体制の充実』

- ・ **ワンストップ福祉相談窓口の整備**

福祉の拠点（福祉課と社協） = 重層推進の拠点



これから、お伝えするのは

『等身大の取り組み紹介』です！

(= みなさんのまちでも再現可能！)

間違っても…

先進事例 では、ありません！

実際に取り組んで良かったこと(重層の効果) や
苦勞したこと、今後の課題、これからの展望 等、
具体的な取り組み方 から 重層推進の考え方 まで
等身大の実践 を余すことなく お伝えします！

これまでの実践、艱難辛苦、主観10割ですが

何か一つでも、皆様の参考 になれば幸甚です！

併せて

なぜ、社協が取り組むのか？ も

社協目線でお伝えします！

もくじ

- 1 重層の基礎理解
- 2 稲沢市の取り組み紹介
- 3 稲沢市が目指す『包括的な支援体制』とは？
- 4 具体的な取り組み方『How-to 重層』
- 5 課題への挑戦
- 6 社協が重層に取り組む意義



©稲沢市 いなっぴー

1 重層の基礎理解

重層推進は 『共感と共創』 が9割

- 1-1 重層の基礎理解
- 1-2 重層推進とは何か？
- 1-3 重層推進の効果

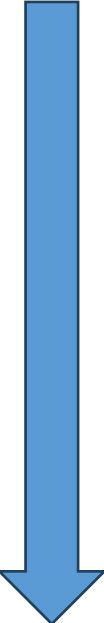


稲沢市社会福祉協議会
マスコットキャラクター『福ちゃん』

1-1 重層の基礎理解

- **『包括的な支援体制』を創るための事業（便利ツール）**

（重層は、主要5事業の強化と一体的連動を目指す事業です！）

- 
- ① **包括的相談支援事業**（以後『相談支援事業』と略す）
 - ② **参加支援事業**
 - ③ **地域づくり支援事業**（以後『地域づくり事業』と略す）
 - ④ **アウトリーチを通じた継続的支援事業**（以後『アウトリーチ事業』と略す）
 - ⑤ **多機関協働事業の5つ**（以後、5つの事業をまとめて『主要5事業』と略す）

- **『地域共生社会の実現』を目指します！**

重層の基礎理解に最適（重層推進担当は必見！）

『地域共生社会のポータルサイト（厚労省）』

⇒ 『なぜ、重層ができたのか？』 『そもそも、重層って何？』

重層の概要から取り組み事例まで『分かりやすく紹介』されています！

重層推進担当は

重層の意義を『自分の言葉』で中学生にも説明できる

よくなることが望ましい！

⇒ 自分が腹落ちしていないのに、他者を『巻き込む』ことはできません！

説明は『相手の理解度に合わせて言葉を変える』必要があります！

1-2 重層推進とは何か？

『みんな』で理想の包括的支援体制を創る『過程』

【ポイント】

①**主要5事業の強化と 一体的連動 を意識する！**

特に『参加支援事業』と『地域づくり事業』の充実が重要！

②**共感から共創（協働）への流れ を意識する！**

多職種連携は『様々な関係者と苦楽を共にする支援の過程』で育まれる！

⇒『○○連携会議』や『各分野への通達』くらいで連携できるなら苦労しない！

重層推進（包括的な支援体制づくり）は、

行政及び関係者『全員』で取り組んでいくもの

誤解① 行政と重層の委託事業者だけで取り組むものではありません！

誤解② 『総合相談窓口の新設』や『支援体制の概要図を描くこと』でもありません！（概要図を描いた時点がスタートです！）

誤解③ 個々に主要5事業を実施することでもありません！

主要5事業に取り組むことよりも、

それらを**一体的に連動させる**ことの方が重要

重層推進の要諦は、意識改革

如何にして関係者の

当事者意識 と 共創への想い を引き出すか・・・

1-3 重層推進の効果（法制度的）

各事業の法制度による（属性や年代等の）縛りが

緩和されます！ ⇒ 『補助金の使途縛り』が緩和されます！

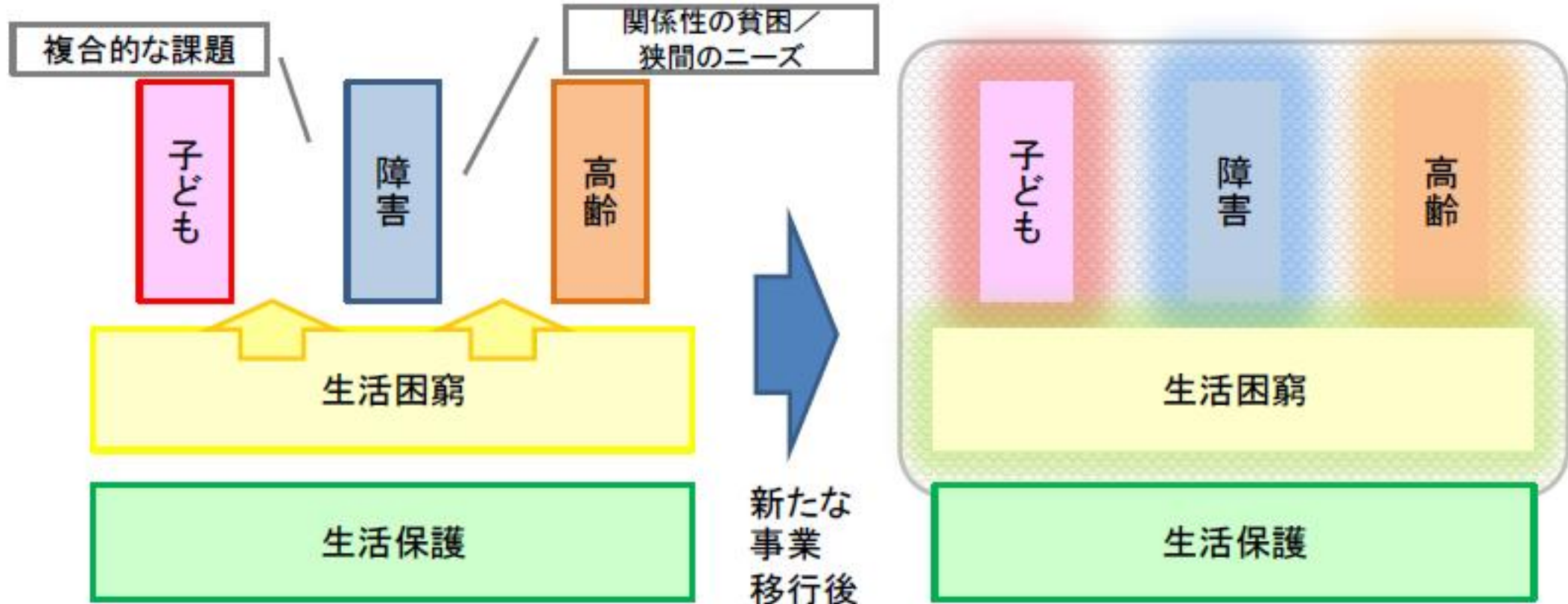
⇒これで、誰もが（本業に支障がない範囲で）専門分野外の相談を受けたり、

制度の狭間に支援の手を差し伸べたりすることが『可能』になります！

こんな感じになります！ (厚生労働省の研修資料より引用)

【移行前】

【移行後】 稲沢市はこっち↓



重層推進の効果（私の実感）

制度の狭間や複合課題に対応できるようになるだけではなく

（本人同意がなくても、ケース検討が可能になった！ ⇒ 『支援会議』のこと）

①（みんなで支えあうから）支援者の心理的負担（抱え込み）が減った

②職場内外を含め 横の繋がりが強化 された

⇒回りまわって 『私の仕事も充実』 してきた！

重層に移行してから職場内外問わず、他分野との協働が本当に増えた！

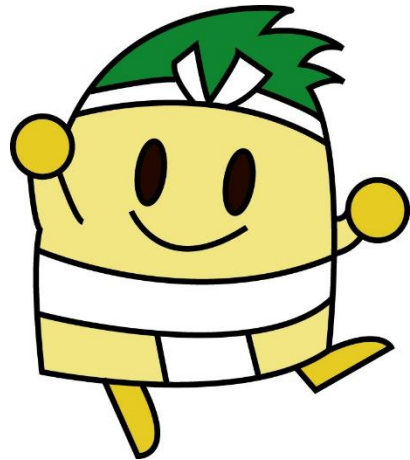
他者と協働して、何かを成し遂げると充実感が味わえる！

～ SSWから実際に頂いた言葉 ～

『もう、一人で抱え込まなくてもいいんですね・・・』

(子育て分野の専門職向け 重層説明会にて)

2 稲沢市の取り組み紹介



今年で『**4年目**』

まだまだ、道半ば・・・



2-1 稲沢市の特徴

・福祉課と社協（福祉総合相談窓口）が重層の推進役

福祉課 ⇒ 全体の調整役（財源確保、庁内連携の充実、後方支援 等）

社 協 ⇒ 包括的な支援体制づくり（稲沢市 e n モデルの充実）

複雑・複合的な課題を抱えたケースの支援調整

周知啓発（研修会の開催）、情報収集、社会資源の開発 等

・生活困窮者支援をベースに『仕組みづくり』を展開！

稲沢市は 福祉課と社協が一体 となって
重層を推進しています！

2-2 主要5事業の全てに社協が携わっています！

① 相談支援事業

基幹型地域包括、基幹相談支援センター、福祉総合相談窓口、成年後見センター

② 参加支援事業

福祉総合相談窓口（居住支援・就労準備支援事業）、CSW = 生活支援コーディネーター（居場所づくり）

③ 地域づくり事業

CSW（生活支援体制整備事業 生活支援コーディネーター）

④ アウトリーチ事業

福祉総合相談窓口（従来のアウトリーチ）、CSW（早期発見型のアウトリーチ）

⑤ 多機関協働事業

福祉総合相談窓口（相談支援包括化推進員 = 重層の推進役）

2-3 福祉総合相談窓口の役割

①生活困窮者自立支援事業等の充実

家計改善支援事業、就労準備支援事業、子どもの学習・生活支援事業

②多機関協働事業等の充実

アウトリーチ事業、参加支援事業、ひきこもり支援事業（LINE相談含む）

最も重要な役割 ⇒ 『（支援者を支える）包括的な支援体制づくり』

③居住支援事業（居住支援法人格を取得）の充実 社協では珍しい！

参加支援事業に位置付けて取り組んでいます！

多機関協働担当 最大の役割は、支援体制づくり

主要5事業一体的連動 の仕掛け役

支援体制づくり \geq 複雑複合ケースの調整

ちなみに、よく似た言葉

多機関協働 と **多職種連携** の違い、分かりますか？

どちらも **多機関協働担当の重要な役割** です！

- **多機関協働(の推進)とは**

皆を巻き込んで、包括的な支援体制を創っていくこと
重層の主要5事業を一体的に連動させること

- **多職種連携(の強化)とは**

複雑・複合的な課題を抱えた**世帯**を支援するための
多職種チームを編成し、支援体制を強化すること
(支援ケースごとに、チーム編成が変化します)

ビジョンを語り、共感で巻き込み、支援体制を共創する

包括的な支援体制 = 人と人との繋がり

2-4 重層の中心で連携を叫ぶ社協

重層の推進は『主要5事業の強化と一体的連動』

社協がハブとなって多職種連携の強化を図っています！



主要5事業に携わる**社協の各部門が連携の起点**となって『多職種連携（一体的連動）』を広げます！

3 ここからは、稲沢市が目指す

『包括的な支援体制』をご紹介します！

みんなの『縁』を育てています！



3-1 稲沢市が目指す『包括的な支援体制』とは？

『支援者を支援するための仕組み創り』 を目指しています！

(分野を超えた支援者どうしが有機的に繋がり、互いに支えあえる仕組み)

(誰がどんな相談を受けても、最適な支援機関に最短で繋がる仕組み)

この『理想の支援体制』を『見える化』したものが

『稲沢市 e n モデル』 (支援体制のポンチ絵) です！

みんなで創る

『稲沢市の包括的な支援体制(重層的支援体制整備事業)』イメージ図 [実施主体:稲沢市]



第1の柱 誰一人取り残さない相談支援事業

(世代や属性を問わず包括的に相談を受け止める体制づくりとチーム支援の強化)

【関係部署】

学校
(スクールソーシャルワーカー)
病院
(医療ソーシャルワーカー)
社会福祉法人
消費生活センター
区長・民生委員さん
保護司さん
大家さん
(市役所 関係各課) 等

【高齢】

地域包括支援センター
基幹型地域包括支援センター
(高齢介護課)

【障がい】

基幹相談支援センター
相談支援事業所
(福祉課)

連携

【生活困窮】

福祉総合相談窓口
(福祉課)

【子ども】

こども家庭センター
子育て支援センター
(子育て支援課・保育課・健康推進課)

みんなで一緒に
支援(縁)の輪を
広げよう!!



第2の柱 参加支援事業

(社会との繋がりを回復するための支援策の充実)
福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター・企業・法人・団体 等

- ①見守り等居住支援の充実
- ②就労(準備)支援の充実
- ③多様な居場所づくり(人や地域との繋がりの場づくり)

アウトリーチ等を通じた継続的支援事業 (早期発見型アウトリーチの強化)

福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター
地域や関係機関との連携強化によって、ひきこもりや8050世帯等、支援が必要な方を早期に発見し、適切な支援につなぎます!

【稲沢市enモデル】

専門外の相談や複雑・複合課題を抱えた個人(家族)の相談は、全て「福祉総合相談窓口」が集約し、適切な支援に繋がります。

◎3本柱の強化と一体的な連動が重要!!

◎私たち全員が当事者です!!

【福祉の拠点】福祉総合相談窓口(多機関協働事業)

支援の視点は、「家族の全体最適」と「チーム支援の強化(多職種連携)」

ステップ① ブラッシュアップ会議

(まずは、社協の専門職で複雑・複合課題の解きほぐし)

社協
(福祉総合相談窓口・基幹型地域包括支援センター・基幹相談支援センター・成年後見センター・生活支援コーディネーター)

ステップ② 稲沢市福祉総合相談対策支援チーム会議(支援会議) *関係部署

(市役所の専門職に加え、多角的な視点から家族全体の支援方針や役割分担等を更に検討します)

市役所(福祉課・子育て支援課・健康推進課) 社協 必要に応じて関係機関も参加

ステップ③ 稲沢市重層的支援会議(生活困窮者自立支援調整会議)

(稲沢市として支援方針や役割分担等の最終決定、支援の評価、不足する社会資源を検討します)

市役所(福祉課・子育て支援課・保育課・健康推進課) 社協



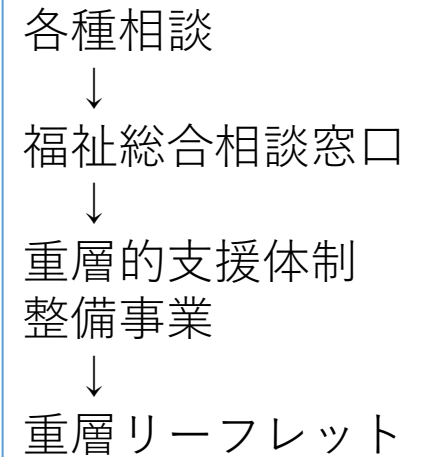
支援(縁)の輪

第3の柱 地域づくりに向けた支援事業

(地域の縁づくりと異業種が交流できるプラットフォームづくりの強化)

- ①世代や属性を超えて交流できる場や居場所の整備(多様な居場所づくり)
 - 【高 齢】 地域介護予防活動支援事業(高齢介護課)・生活支援体制整備事業(福祉課)
 - 【障 がい】 地域活動支援センター事業(福祉課)
 - 【生活困窮】 生活困窮者支援等のための地域づくり事業(福祉課)
 - 【子 ども】 地域子育て支援拠点事業(子育て支援課)
 - ②社会資源(共通価値)を共創する場の整備(地域貢献活動の活性化)
 - 異業種が集う様々なプラットフォームの整備(福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター)
- 社会資源の創造 = 地域の困りごと × 地域の力 × みんなの想い

社協のHPからダウンロードできます。



3-2 『稲沢市 e n モデル』とは？

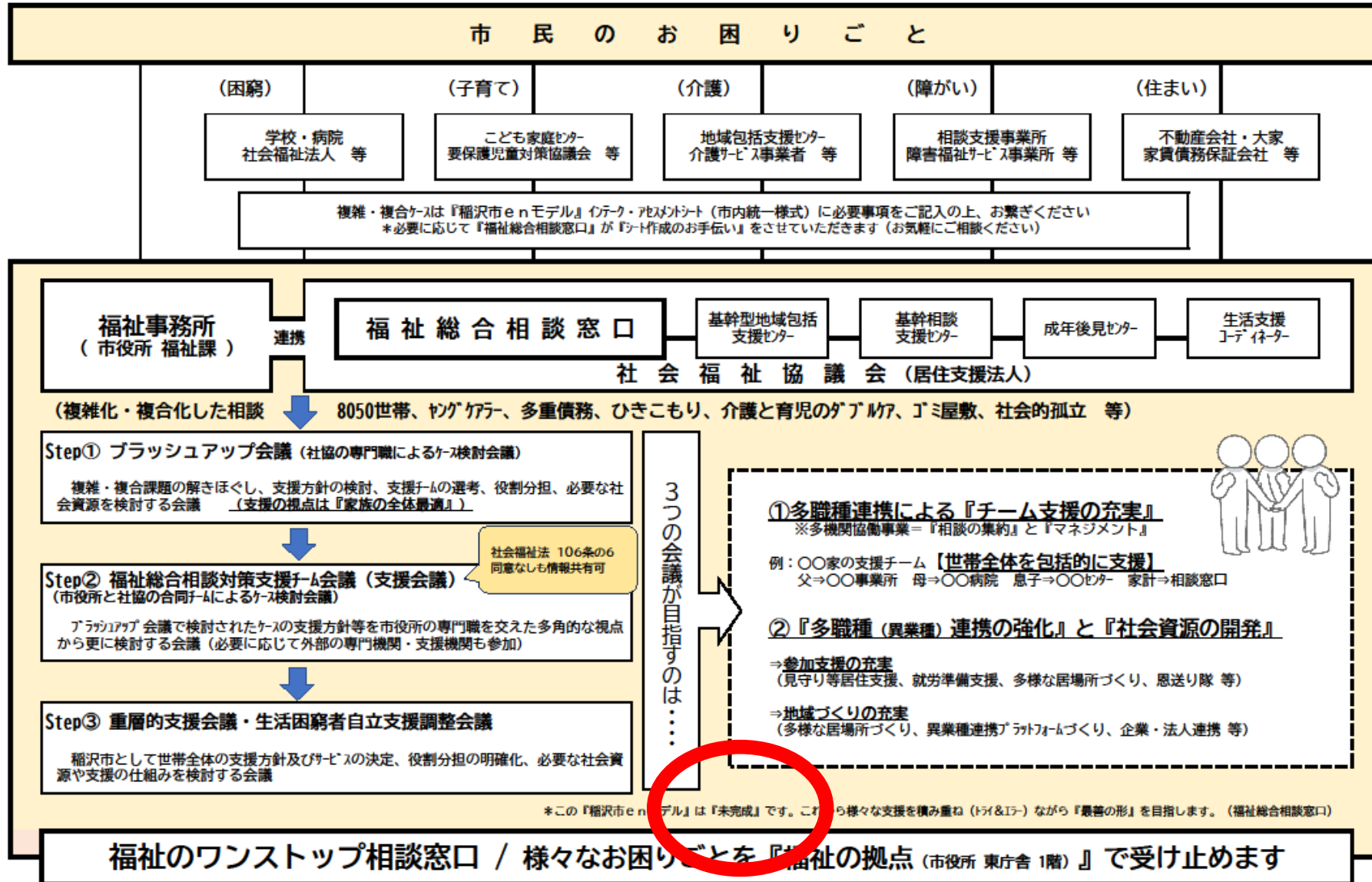
【多職種連携のフロー図】

- ・ 複雑・複合課題の相談受付から支援開始までを可視化したもの
- ・ 福祉総合相談窓口が受付けた複雑・複合課題を抱えたケースは 『3段階のケース検討会議』 で支援方針等をブラッシュアップします！
(3会議×毎月1回開催 * 緊急時は随時開催)
- ・ これらの会議には、様々な専門職が集まり 『複眼的な視点』 から 『世帯全体の支援方針』 を検討します！

稲沢市enモデルは、永久に**未完成**が理想！？

重層的支援体制整備事業 『稲沢市enモデル（多機関協働による『包括的支援体制づくり』の全体像）』（ver.3 2024/6更新）

【みんなで強化するポイント】⇒ ①支援者を支援する仕組み ②どこからでも専門機関に繋がる仕組み ③複雑・複合課題をチームで支援する仕組み



社協のHPからダウンロードできます。

各種相談
↓
福祉総合相談窓口
↓
重層的支援体制整備事業
↓
稲沢市enモデル

3つの会議が目指すのは...

- ①多職種連携による『チーム支援の充実』
※多機関協働事業=『相談の集約』と『マネジメント』
例：〇〇家の支援チーム【世帯全体を包括的に支援】
父→〇〇事業所 母→〇〇病院 息子→〇〇センター 家計→相談窓口
- ②『多職種（異業種）連携の強化』と『社会資源の開発』
⇒参加支援の充実
(見守り等居住支援、就労準備支援、多様な居場所づくり、恩送り隊 等)
⇒地域づくりの充実
(多様な居場所づくり、異業種連携プラットフォームづくり、企業・法人連携 等)

*この『稲沢市enモデル』は『未完成』です。これから様々な支援を積み重ね（トライ＆エラー）ながら『最善の形』を目指します。（福祉総合相談窓口）

複雑・複合的なケースを繋ぐ際の 共通ルール

丸投げ禁止！

3段階の会議で支援精度を高めます！

各会議の検討視点は 『世帯の全体最適』 と 『チーム支援の充実』

step①ブラッシュアップ会議（複雑ケースの解きほぐし及び支援プランの素案作成）



社協の専門職によるケース検討会議（新人相談員のOJT・SV機能を兼ねる）

step②福祉総合相談対策支援チーム会議（『支援会議』）



市役所の専門職を含めたケース検討会議（必要に応じて関係機関も参加します）

step③重層的支援会議（生活困窮者自立支援調整会議）

現場レベルで検討した支援プランや役割分担等を最終決定する会議

対策支援チーム会議（令和7年1月15日）の様子



この日は、豊川市の皆様が見学されました！

【ポイント】

対策支援チーム会議は、参加メンバーの

『スキルアップの場』でもあります！

ケース検討を通し

各分野のベテラン専門職の知識や経験、感性、

アセスメントの視点や関わり方のコツなど

支援のノウハウ（暗黙知）も学び合います！

ブラッシュアップ会議 と 対策支援チーム会議 を

参加者全員のスキルアップの場 にしたい！

(市全体の支援レベルのスパイラルアップの場)

分野を超えた各専門職の知識(形式知)や

支援のノウハウ、感性(暗黙知)を

参加者全員が共有できる場を創っていききたい！

3つの会議では『ケース検討』を通して

稲沢市に不足する社会資源の開発 も検討します！

(= 参加支援事業の充実)

【工夫した点】

ケース検討会で使用するインタビュー・アセスメントシートに
『あったらいいなと思う社会資源』 を記載する欄を設けました！



3-3 参加支援事業の充実が一番難しい！

～『相談支援事業』と『地域づくり事業』の架け橋～



参加支援事業は『既存の仕組みでは対応できないニーズ』に対応するため、
社会資源を活用し、社会との繋がり創りに向けた支援を行う事業

既存の社会資源とのマッチングや

『ニーズに合った、新しい支援メニューを創る事業』

*オープンイノベーション

(=社会資源開発) * 組織内外の知識や知恵を組み合わせることで付加価値を創造すること

(社会資源開発)

参加支援充実の公式 (*私の仮説です。只今、検証中!)

A × B × C = 『恩送り隊』 (無償の地域貢献活動)

恩送り隊は、社協職員の『狂気的情熱』と若き経営者の『熱き想い』から生まれた!

- A** 既存の仕組みでは、解決できない『ニーズ (困りごと)』
(生活困窮世帯の①ゴミ屋敷片づけ、②草木の伐採、③引越しの手伝い 等)
- B** 社協職員の『狂気的情熱 と 創造 (妄想) 力』 👉ここが『0』だと…
- C** 稲沢市民の『地域貢献活動への熱い想い』

元気になったら、今度は、あなたが、誰かを支えてください

令和5年度開発『稲沢市恩送り隊』 ～『パイオワード』の仕組み創り～

地域で助け合い「恩送り活動」



稲沢市の若手経営者らが、生活困窮世帯の困り事を解決する仕組みづくりに挑戦している。その名は「恩送り活動」。市社会福祉協議会の協力を得て、支援が届かないことで悩む市民と、地域貢献をしたい人々をマッチング。「支援を受けた人が元気になったら、いつか別の人を助ける。そんな良い縁をつなぎたい」と意気込む。(寺田結)

困っている人と助けたい人マッチング

六月末、市内のある二戸建て住宅にメンバー三人が集まった。庭の草木が生い茂り、周囲の家や駐車場、通学路に飛び出して、通行を妨げている。三人は住人と相談して、清掃を開始。持ち込んだ機械を使って、一気に片付けた。

この男性一人。処理するべきとは分かっていたが、近所の目が気になって外に出られず、放置せざるを得なかった。しかし、自治体の制度では現状に対処できないのが現状だ。そこで手を挙げたのが、市内でエスエム遺品整理の事業を営む山下雄基さん(三)＝同市平和町。昨年秋、地域貢献ができないかと市社会福祉協議会に相談

庭生い茂った草木を片付ける「恩送り活動」のメンバー(稲沢市内)。

福祉新聞→

令和5年7月25日

←中日新聞

令和5年7月11日

(本会のホームページに掲載)



困窮者宅の庭の雑木を伐採する恩送り隊

稲沢市社協 恩送り隊が始動 次の困窮者につなぐ

東海・北陸

愛知県の稲沢市社会福祉協議会は、困窮者協会の恩送り隊の活動を支援の一環として6月に「恩送り(パイオワード)隊」の活動を始めた。パイオワードとは「自分が受けた善意をほかの誰かに返

が市から受託している重層的支援体制整備事業の中の参加支援事業として取り組む。困窮者支援するボランティア(企業や社会福祉法人など)を募集し、同社協の福祉総合相談窓口で支援が必要と判断された困窮者、引き取られた人やヤングケアラーなどに、庭の雑木の伐採、ゴミ屋敷の清掃、フードドライブ、居場所づくり、就労体験受け入れなどを行う。困窮者はいつか元気になったらできる範囲で誰かを支え、輪を広げていく。エドワードとして一人暮らしで精神障害と自内傷を患っている60代の男性宅で、70代の父と30代の引きこもりの娘の自宅を、3軒の庭の雑木を伐採した。作業は商工会議所の有志が行った。同社協はまずはモデルケースを示し、市民にパイオワードの意義や効果を広めていく。加藤泰章・同社協相談支援包括推進員は「活動を見える化してボランティアが集まれば拠点を増やしていきたい」と意欲を語っている。(覆戸新)

今度は、私が手伝います！

私たちは、参加支援事業の充実を通して

『**恩送り**（* Pay it forward）の文化』も

広めていきたい！（『**善意の好循環**』を創りたい！）

* 自分が受けた善意を誰かに送ることで善意を繋いでいくこと

ちなみに、本会の独自事業 『**居住支援事業**』 も

社協職員の 『**狂気的情熱**』 から4年越しで立ち上げた

参加支援事業のひとつです！



(詳しくは、本会のHPもしくはNORMA社協情報 2024年10・11月号 をご覧ください！)

～居住支援×SDGs～

居住支援法人 稲沢市社会福祉協議会

住宅確保要配慮者居住支援法人 愛知第25号(令和4年3月16日 愛知県指定)

住宅確保要配慮者居住支援法人とは、住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への円滑な入居の促進を図るため、住宅確保要配慮者に対し賃貸住宅への入居に係る住宅情報の提供・相談、見守りなどの生活支援等を実施する法人として都道府県が指定するものです。

○支援対象(稲沢市在住)

生活困窮者、高齢者、障がい者など、住まいにお困りの方

○支援内容

① 住み慣れた住居で安定した生活を続けるための支援

「家賃滞納」「心身の状態に不安がある」「仕事がない」など

生活を維持することが困難な課題に対して、必要な制度や支援機関に繋がります。

例) 就労支援……生活困窮者自立支援事業(福祉総合相談窓口)

介護保険制度……地域包括支援センター、高齢介護課

障害福祉サービス…基幹相談支援センター、相談支援事業所 など

② 家探しが必要な世帯に対する入居支援

「家賃が高い」「立ち退き」「住み替え」など

市内の協力不動産店と協力し、新しいお住まいを一緒にお探しします。

大家さんに断られてしまう「課題」に対し、支援機関が包括的に支援をすることで、大家さんの不安が軽減されるようアプローチします。

社会福祉法人 稲沢市社会福祉協議会

福祉総合相談窓口(居住支援担当) ☎ 0587-32-1484

〒492-8269 稲沢市稲府町1番地 稲沢市役所東庁舎1階

開設時間：月～金 8時30分から17時15分まで(祝日・年末年始は除く)

支援の流れ(家探し)



(このリーフレットは、稲沢市社協のホームページからダウンロードできます)

市民の困りごと(ニーズ)に真摯に向き合う

狂気的情熱 が全ての原点

社会資源が無いなら、創ればいい！

3-4 地域づくり事業の取り組み

- **S C (C S W) 5名配置** * S C (生活支援コーディネーター) = C S W (コミュニティソーシャルワーカー)
第1層 S C = 1名 第2層 S C = 4名
- **第1層 S C の主な役割 (市全域)**
第2層 S C の後方支援、企業や社会福祉法人連携の強化、C S W活動 他
- **第2層 S C の主な役割 (支所・市民センター圏域)**
協議体の運営、多様な居場所づくり、C S W活動 他



【生活支援体制整備事業で「地域づくりに向けた支援」】
多世代交流型サロン『よってっ亭』立上げ伴走支援（稲沢市梅須賀町）

重層推進におけるS C（CSW）の役割

- 『相談支援事業』と『地域づくり事業』の橋渡し役

個別ケースから社会資源開発や地域づくりに繋げる役割（その逆も）

⇒なので、S Cは毎回『重層のケース検討3会議』全てに参加しています！

- **CSW** （早期発見型のアウトリーチ含む） としての役割

民生委員や町内会、協議体等、地域との強い繋がりを活かして、

支援が必要な方を早期に発見し、適切な支援機関に繋がります！

みんなで創る

『稲沢市の包括的な支援体制(重層的支援体制整備事業)』イメージ図 [実施主体:稲沢市]



第1の柱 誰一人取り残さない相談支援事業

(世代や属性を問わず包括的に相談を受け止める体制づくりとチーム支援の強化)

【関係部署】 学校 (スクールソーシャルワーカー) 病院 (医療ソーシャルワーカー) 社会福祉法人 消費生活センター 区長・民生委員さん 保護司さん 大家さん (市役所 関係各課) 等	【高齢】 地域包括支援センター 基幹型地域包括支援センター (高齢介護課)	【障がい】 基幹相談支援センター 相談支援事業所 (福祉課)
連携		
【生活困窮】 福祉総合相談窓口 (福祉課)	【子ども】 こども家庭センター 子育て支援センター (子育て支援課・保育課・健康推進課)	



第2の柱 参加支援事業

(社会との繋がりを回復するための支援策の充実)
 福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター・企業・法人・団体 等

- ①見守り等居住支援の充実
- ②就労(準備)支援の充実
- ③多様な居場所づくり(人や地域との繋がりを強める)

【稲沢市enモデル】
 専門外の相談や複雑・複合課題を抱えた個人(家族)の相談は、全て「福祉総合相談窓口」が集約し、適切な支援に繋がります。

◎3本柱の強化と一体的な連動が重要!!

◎私たち全員が当事者です!!

アウトリーチ等を通じた継続的支援事業(早期発見型アウトリーチの強化)
 福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター

地域や関係機関との連携強化によって、ひきこもりや8050世帯等、支援が必要な方を早期に発見し、適切な支援につなぎます!

【福祉の拠点】福祉総合相談窓口(多機関協働事業)

支援の視点は、「家族の全体最適」と「チーム支援の強化(多職種連携)」

ステップ① ブラッシュアップ会議
 (まずは、社協の専門職で複雑・複合課題の解きほぐし)

社協
 (福祉総合相談窓口・基幹型地域包括支援センター・基幹相談支援センター・成年後見センター・生活支援コーディネーター)

ステップ② 稲沢市福祉総合相談対策支援チーム会議(支援会議) *関係部署(市役所の専門職に加え、多角的な視点から家族全体の支援方針や役割分担等を更に検討します)

市役所(福祉課・子育て支援課・健康推進課) 社協 必要に応じて関係機関も参加

ステップ③ 稲沢市重層的支援会議(生活困窮者自立支援調整会議)
 (稲沢市として支援方針や役割分担等の最終決定、支援の評価、不足する社会資源を検討します)

市役所(福祉課・子育て支援課・保育課・健康推進課) 社協



第3の柱 地域づくりに向けた支援事業

(地域の縁づくりと異業種が交流できるプラットフォームづくりの強化)

- ①世代や属性を超えて交流できる場や居場所の整備(多様な居場所づくり)
 - 【高 齢】 地域介護予防活動支援事業(高齢介護課)・生活支援体制整備事業(福祉課)
 - 【障がい】 地域活動支援センター事業(福祉課)
 - 【生活困窮】 生活困窮者支援等のための地域づくり事業(福祉課)
 - 【子 ども】 地域子育て支援拠点事業(子育て支援課)
- ②社会資源(共通価値)を共創する場の整備(地域貢献活動の活性化)
 - 異業種が集う様々なプラットフォームの整備(福祉総合相談窓口・生活支援コーディネーター)

社会資源の創造 = 地域の困りごと × 地域の力 × みんなの想い

社協のHPからダウンロードできます。

各種相談
 ↓
 福祉総合相談窓口
 ↓
 重層的支援体制整備事業
 ↓
 重層リーフレット

稲沢市は、相談支援や地域づくり等、これまで取り組んできた

『社協の強み』を活かした重層を展開しています！

重層は、市町村の『創意工夫』で取り組むもの！

だから『1700通りの形』があっというんです！

4 次は、具体的な取り組み方

『How-to 重層』 をご紹介します！

エッホ エッホ



『重層推進は、3手順でOK!』って
みんなに伝えなきゃ！

重層推進は、たったの3手順でOK！



Step③仮説形成と仮説検証

Step②情報収集（TTPA）と内情把握

Step①内発的動機付けと基礎理解の徹底

Step① その前に・・・（ここ、超重要！）

・ まず、『何のために取り組むのか？』を明確にする！

・ 次に、重層推進担当者（自治体の旗振り役）を選任する！

～ 選任のヒント～ 重層は『創意工夫』で取り組むもの！

なので、『創意工夫』を『やりたいほうだい！』と読める人

あれもやりたい！こんな支援体制を創りたい！とワクワクできる人

自ら課題を設定し（他者を巻き込みながら）取り組んでいける人が適任！

何のために取り組むのか？

ここを曖昧にしてスタートすると **迷走** します！

私もこれまで様々な先進地を拝見しましたが、

先進地と呼ばれる所は共通して

リーダー

『強い旗振り役』となる職員がいました！

Step① 内発的動機付けと基礎理解の徹底

- ・ **まず、担当者自身の『内発的動機（主体性）』を高める！**

重層推進担当には『自ら考え、行動し続ける力 と 楽観力』が必要！

↑このスキルを持つ『職員の有無』が重層推進の明暗を分けます！

- ・ **重層の基礎理解を徹底する**  『意識が高い』だけではダメ！

『制度』 『先進事例』 『我がまちの状況』 の3つを理解する！

『理解した』とは『自分の言葉で中学生に説明できる』状態
基礎理解に最適！ ⇒ 『地域共生社会のポータルサイト（厚労省）』

内発的動機 が全ての原動力！

重層推進は、**やらされ仕事**でできるものではない！

だからこそ

自ら考え、行動できる リーダー が必要！

Step② 情報収集（TTPA）と内情把握

- ・ 先進地を視察してTTPA 『A』

重層推進のセオリーは、ゼロからイチを生み出すのではなく

先進地の取り組みを徹底的にパクって、我がまちの形に『アレンジ』する！

【注意】丸パクリは機能しません！ なぜかって？ 地域特性（社会資源）が違うから！

- ・ 我がまち（地域特性や社会資源等）の把握 （内側の把握）

内側の把握 = 既存事業や支援体制、社会資源の棚卸（再確認）

これを知らずして『理想の支援体制』を描くことは、できません！

重層推進のヒント①

『既存の強み（支援体制・人財・社会資源）を活かす！』

棚卸ができたなら『既存の強み（支援体制・人財・社会資源）』を
ベース（土台）に『主要5事業』を連動させていく！

【担当者の独り言】

私たちは、稲沢市の既存の強み『生活困窮者支援の仕組み』を土台に、
先進地の〇〇モデルをパクって『稲沢市e nモデル』を創りました！

既存の **強み** × 先進地の **TPPA**

= 私たちが目指す包括的な支援体制



多摩市さんの **強み** は何ですか？

Step③ 仮説形成と仮説検証（ここ、重層担当の醍醐味！）

- ・ **仮説形成**（ビジョンを『妄想し、見える化』させる）

厚労省の思い、社会資源、地域特性、強み、先進事例等を総合的に勘案し

担当者の**妄想**（理想の支援体制）を『見える化』させる！ 👉ここ重要

- ・ **仮説検証**（周知啓発 ⇒ 巻き込み ⇒ 試行錯誤 ⇒ 活動評価）

みんなを巻き込んで試行錯誤する『過程』こそが『重層推進』そのもの！

皆を巻き込んでいくためには

(皆が正しく認識できる)

『共通のビジョン』が必要！

* 稲沢市の場合は『稲沢市enモデル』です！

ビジョン（理想の支援体制の概要図）を描く際のポイント

- ① 既存事業（我がまちの強み）を活かしているか？
- ② 主要5事業が連動しているか？
- ③ 先進地の取り組みをパクって（オマージュして）いるか？
- ④ 重層推進担当者の妄想（想い）が詰まっているか？
- ⑤ 分かりやすい紙1枚の相関図として描けているか？

『理想の支援体制の概要図（ビジョン）』が描けたら

後は、みんなを巻き込んで（口では簡単に言えるが超困難！）

試行錯誤（実践と検証）を繰り返すだけ！

じゃあ、どうやって巻き込んでいくのか？

(3つの仕掛け)

1. ケース支援 を通して巻き込んでいく
(協働)

2. 対話(雑談)を重ねて巻き込んでいく

3. 周知啓発(研修会等)で巻き込んでいく

事業説明よりも、包括的支援体制づくりの目的の共有
『何のために取り組むのか?』を伝えていく!

重層推進のヒント②

『巻き込むときは、相手のメリットを強調する！』

- ・人は、利益と感情で動く！？

理屈で『人が動く』なら苦勞しません！

- ・包括的な支援体制づくり（ビジョン実現の先にあるもの）が自分にとってどのような利点があるのか強調する！

概要図なんて未完成でも、間違っているとしても全く問題なし！

みんなで試行錯誤する過程こそが重層の推進 なんだから！

とにかく 『動き始めること』 が重要です！

重層推進のヒント③ 『連携の定義を明確に！』

『連携しましょう！』では『連携できません！』

なぜなら『連携の定義が人によって曖昧』だから

・ 私たちの『**連携の定義**』は、次の①②を満たす状態です！

①互いの顔、役割・業務内容、連絡先を知っている

②気軽に相談できる関係になっている

⇒『仕事以外の雑談』もできる関係なら言うことなし！

抽象的な表現 が重層推進を阻害する！？

他者を巻き込む時は

定義の明確化 と 具体化(言語化)を意識する！

皆さんが目指す

包括的な支援体制は、どんな形ですか？

皆、同じもの(ビジョン)が見えていますか？

重層推進のヒント④

『連携の秘訣は、対話（雑談）と協働』

- 用がなくても『対話（雑談）』する！（単純接触効果の応用！？）

連携の充実度は『関係者間のコミュニケーションの総量』に比例する！

多職種連携は、様々な関係者との『何気ない会話（雑談）』と『苦楽を共にする支援の過程（協働）』で育まれます！

対話 × 協働 ⇒ 共感 ⇒ 共創

重層推進のヒント⑤

『周知啓発やビジョンは100回伝えるつもりで！』

- ・ 『伝える』と『伝わる』は、全く違う！

『伝わる』とは、相手の行動が変容すること（部下への指導も同じ）

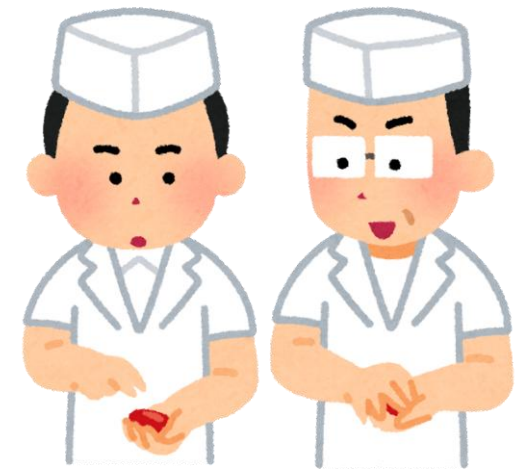
1回や2回の研修会で行動変容するなら苦労しない！

『伝え方』にも工夫が必要！（参加型のグループワークが効果的！？）

5 課題への挑戦

ベテランのスキル（支援の感性・機微＝暗黙知）を
如何にして、次の世代へ伝えていくか・・・

- 5-1 3年間で見えてきた課題
- 5-2 『人財育成』への挑戦
- 5-3 『共感 ⇒ 我が事 ⇒ 共創』への挑戦
- 5-4 『活動評価』への挑戦



5-1 3年間で見えてきた3つの課題

課題①『人財育成』 ＊最も重要な課題

ベテランのスキルや感性を如何にして次の世代に伝えていくか？

課題②『当事者意識の欠如』（まだまだ、他人事？）

如何にして支援体制づくりに我が事として巻き込んでいくか？

課題③『重層推進の活動評価』

数字の大小だけで評価できない！

体制づくりや地域づくり等『見えないもの』をどう評価するか？



5-2 『人財育成』 への挑戦

包括的支援体制づくりの要諦は 『人づくり』

組織の枠を超えた『皆が成長する場』を創りたい！

『SECI（セキ）モデル』を応用し、組織の枠を超えたベテラン支援員の『知識（形式知）と感性（暗黙知）を共有できる場（学び合える場）』を創りたい！

⇒ 『支援スキルの継承』

5-3 『共感 ⇒ 我が事 ⇒ 共創』への挑戦

重層の目的 ⇒ 『皆で』包括的な支援体制を創ること

では、どう働きかければ、人は動くのか？（永遠の課題！）

【2方向への仕掛け】 * どちらも『感情』にフォーカスする！

社協内部 ⇒ インナーブランディング（グループ内で小さく実験中）

社協外部 ⇒ ナッジ理論 × 周知啓発（研修会）100回

重層推進の核を担う社協職員の『主体的な考動』を 促すためには インナーブランディング が有効！？

管理職（リーダー）が各部門の社協職員に対し、社協の（各部門の）M V V
（ミッション・ビジョン・バリュー）を浸透させることによって、
仕事への使命感、誇り、帰属意識、主体性等を高めるための取り組み。

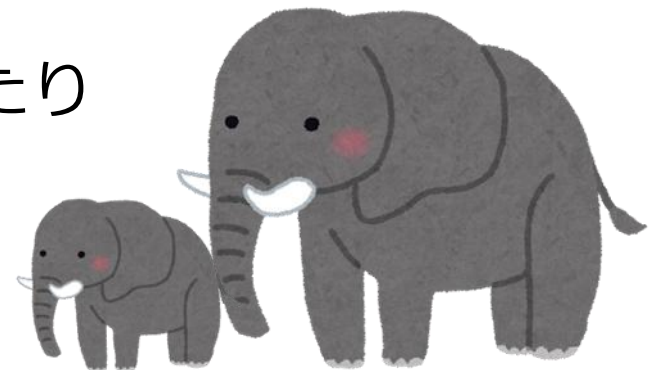
語句の説明

【SECIモデル】 *ナレッジマネジメントの基礎理論

個人が蓄積した知識や経験（暗黙知）を組織全体で共有して形式知化し、
新たな発見を得るための知識創造プロセス

【ナッジ理論】 *行動経済学の理論の一つ

人々を強制したり、経済的なインセンティブを与えたり
することなく、望ましい行動を促す戦略
協働への『第一歩』を如何にして促すか？



5-4 『活動評価』への挑戦

『評価なくして、改善なし！』

目下、重層的支援体制整備事業の評価指標の一つ

『A + B + Cモデル』を勉強中！

書籍『重層的支援体制整備事業における評価活動のすすめ』
を何度も読み直していますが、未だに理解できません！
(誰か教えてください・・・)



何となく『見えてきた』こと

評価活動のポイントは、次の二つに集約される！？

①主要5事業の『土台（一体的連動の土台）』を評価する

土台（基礎）＝ 地域福祉（活動）計画、既存の取り組み、人的資源 等

②評価活動に多くの関係者を巻き込む

評価よりも『みんなで評価するプロセス自体に意義がある』のでは？

最後のテーマ

重層を通して

社協の存在意義 を考えます！

6 社協が重層に取り組む意義

～ 重層事業を通して『社協の存在意義』を考える ～

- 6-1 重層は社協そのもの！
- 6-2 社協が重層に取り組む意義
- 6-3 再び、地域福祉（地域づくり）の中核へ
- 6-4 断じて行えば、鬼神もこれを避く！



6-1 重層は社協そのもの！

3年間、取り組んできて確信した！

重層ほど『社協の存在意義』を示せる事業はない！

重層は、これまで積み上げてきた『社協事業の延長線上』にある！

重層の推進 = 社協 (CSW) の充実

相談支援、参加支援、地域づくり、アウトリーチ、多機関協働

社協にとっては、**既知の事業**

6-2 社協が重層に取り組む意義

- ・ 社協にとって重層は、**既知の事業**

他法人・他団体等に比べ、圧倒的なアドバンテージ（優位性）がある！

特に『地域づくり』には、長年培ったノウハウと実績がある！

- ・ 重層の出来は 『地域づくりと参加支援の充実』にかかっている！

主要5事業の中でも『地域づくりと参加支援』は、難易度が高い事業

社協が長年培ったノウハウと実績を活かせる『最高のステージ』となる！

私たちは、最も得意とする 地域づくり から

地域共生社会の実現 (= 重層事業の推進) に

貢献する責務がある！

重層5事業の難易度 (全事業に携わった上での私見です!)

SS 地域づくり事業・参加支援事業  社協の見せ場!

S 多機関協働事業

A 相談支援事業・アウトリーチ事業

理由：全部難しいが、SSに行くにつれ『マニュアル』や『正解』がなくなり『創造力』『実行力』『コミュカ』等の高度なスキルが必要になるから

6-3 再び、地域福祉（地域づくり）の中核へ

『地域づくり事業』や『参加支援事業』は、本当に難しい！

だからこそ（社協なら）失敗を恐れず突き進め！

本当の失敗は『何もしない』こと！

現状維持、前年踏襲、思考停止、指示待ち、机上の空論で満足・・・

真剣に考え、悩み、チャレンジした結果に『失敗』なんてものはない！

全ての社協に伝えたい！

全国の様々な取り組みを見てきてよく分かった！

NPOや社会福祉法人等の **地域づくり** には

目を見張るものがある！（本当にすごい！）

拳句の果てには・・・

社会福祉法 第6条に **行政の責務** までが明記

包括的な支援体制づくり や **地域福祉の推進** は、

行政が責任をもって進めていくだと？

社協は、もう、あてにされていない？

『 地域福祉の中核を担う社協 』

なんて言われていたのは、過去の話

私たちは、

(自主財源の減少、NPOや他の社会福祉法人等の台頭……)

社協が置かれている **危機的な状況** に

早く、気づかないといけない！

いつまでも、同じ事業の繰り返しでは
生き残れない！



6-4 断じて行えば、鬼神もこれを避く！

私たちに必要なのは 『覚醒』と『百折不撓の精神』

私たちは『社協の強み』を活かして稲沢市の重層を牽引する！

たとえ、どんな困難があっても『社協らしさ全開』で必ず乗り越えていく！

覚醒した 私たちなら、必ずできる！

覚醒(意識改革)のヒントは、

インナーブランディング にあり！？

職員一人ひとりが

社協のMVV と 自らの使命 を理解した時、

社協は再び 地域福祉の中核に返り咲く

(社協 プライド)

みんなで『社協の矜持』を見せつけてやろう！



ご清聴、ありがとうございました！

今回のご縁をきっかけに担当者の皆様とも
情報交換できれば幸甚です！

* この資料に関するご質問やご意見等がございましたら、お気軽にお問い合わせください！

稲沢市社会福祉協議会 福祉総合相談窓口 重層推進担当 0587-32-1484